

2018 CSR報告書

まちづくり・社会活動レポート

つなぐ安心、明日もいきいき

 医療生協さいたま





あいさつ

医療生協さいたまでは、組合員・職員が力を合わせ、地域の協力も得ながら、2017年度も新しい事業を立ち上げることができました。

新施設としては、熊谷市で小規模多機能型居宅介護施設くまここ、所沢市で小規模多機能型居宅介護施設さんとも・グループホームさんとも、川口市で老人保健施設みぬまの新棟が、それぞれオープンしました。24時間対応する定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの事業は、行田市のケアセンターさきたま、川口市のケアセンターきょうどう、所沢市のケアセンターとこしんでもスタートしました。ほかにも、各地域で、自治体や他生協、NPOなどと連携・協力しながら、活発な取り組みが展開されました。

これらはどれも、組合員をはじめとした地域の方が、住みなれた場所で、健康に長生きできるよう支援する事業です。医療生協さいたまがめざす「地域まるごと健康づくり」を実現するためにすすめてきました。

組合員が主体的に地域のなかで取り組んでいる健康ひろばは104支部・142カ所で、安心ルームは75支部・105カ所で実施されました。県内6医療生協が合併して誕生した節目の「25周年記念ニコニコ健康まつり」は、支部では114カ所、事業所では15カ所で開催されました。これらのまつりに参加された方は、延べ1万1,000人を超えます。フレイル予防のための取り組みも活発です。

地域での見守りに関する協定や登録を行った自治体数は、34まで増えました。多世代食堂、オレンジカフェ、相談事業などでも、自治体との連携・協力関係は深まっています。越谷市では、全国初の医療生協と購買生協の協同の取り組みである総合事業もスタートしています。

一方で、2018年度改定の国による診療報酬・介護報酬の改定は厳しい内容であり、生活保護費などの社会保障費も削減の一途にあります。経済格差が広がり、貧困問題もいっそう深刻になっています。こうしたなか、医療生協さいたまは住民のいのちと暮らし、平和を守る活動に取り組みつつ、より安心で安全な医療・介護事業を展開していくことが使命と考えています。2019年春のオープンに向けた埼玉西協同病院の増床・増築の工事も、順調にすすんでいます。

健康で笑顔あふれるまちをつくるため、行政をはじめ、地域の各団体、住民のみなさまとともに、さらに事業をつくりあげていきます。引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

2018年10月1日

医療生協さいたま生活協同組合
理事長 雪田慎二

基本理念 私たちのころ

人が人として大切にされる社会をめざし
保健・医療・介護の事業と運動をととして
様々な人たちと手をつなぎあい
平和とくらしを守り
健康で笑顔あるまちをつくれます。

行動指針

- ◎私たちは、心に寄り添う、信頼できる医療とあたたかい介護を、利用者の主体的参加の中でつくります。
- ◎私たちは、いのちと人権を脅かす戦争や政治に反対し行動します。
- ◎私たちは、組合員の参加をひろげ、県民とともに歩みます。
- ◎私たちは、地球環境を守り向上させます。
- ◎私たちは、仲間とともに成長し、一人ひとりの自発性と創意を活かす医療生協をつくります。

CONTENTS

あいさつ
基本理念・行動指針
事業所一覧

- 1 安心の医療・介護・保健事業** 06
相談窓口の充実と「いのちの平等」の実践/16事業所で無料低額診療事業を実施/
公開講座「命の授業」の開催/住みなれた地域生活をサポート/健診事業と健康習慣
- 2 地域に役立つ地域包括ケア** 08
HPHとSDH — 人も地域も健康に/
定期巡回・随時対応訪問サービス — 「24時間・365日の安心」をめざして/
地域包括支援センター事業の受託・運営/くらしサポーター — 組合員の助け合い活動/
健康寿命を延ばす — フレイル予防
- 3 住みなれた地域でつなぐ安心 — 共生のまちづくり** 10
多世代コミュニティ — 子どもから高齢者まで/健康ひろば/安心ルーム/
オレンジカフェ — 認知症の方やその家族とともに/視覚障がい者向けの「声の新聞」
- 4 自治体や諸団体との連携で暮らしやすく、住みやすく** 12
住民主体の総合事業 — 組合員支部が参加するまちづくり/
コラム「経済的事由による手遅れ死亡事例」の調査/見守り協定 — 34自治体と/
子育て支援 — 病児・障がい児をもつ家族のサポート/
住みやすいまちづくりのための協力・連携・受託など
- 5 地域に寄り添い地域に開かれた医療生協** 15
地域に開かれた健康づくりのイベント/市民公開講座 — 地域とともに学び、考える/
フードドライブ — 食の助け合いと支え合い/
まちかど健康チェック・健康相談 — 地域まるごと健康づくり/
コラム子ども向け体験型の口腔衛生教室/地域の社会貢献団体への資金助成/
地域と協力した合同防災訓練・BLS訓練/**コラム**危険性を「見える化」するDIG訓練
- 6 いのちと人権が大切にされる平和な社会をめざして** 18
災害復興の支援活動/憲法カフェ — 気軽に学ぶ人権・平和/
核のない世界をめざして/核兵器禁止条約交渉会議・ニューヨーク行動に職員を派遣/
『へいわノート』第2巻を刊行
- 7 働きやすい職場づくりと環境にやさしい取り組み** 20
女性が活躍する職場/埼玉県の認証制度で最高ランクの老人保健施設/
仕事と子育てを両立させるための環境整備/次世代の育成と事業継続のために/
CO₂排出量と環境報告書/**コラム**放射線量の測定

医療生協さいたまのキャラクター「ココロン」
組織概要

事業所一覧

▶ 県南地域ネットワーク

- ① 埼玉協同病院…………… TEL：048-296-4771
〒333-0831 川口市木曽呂1317
- ② 川口診療所…………… TEL：048-252-5512
〒332-0022 川口市仲町1-36
- ③ さいわい診療所…………… TEL：048-251-6002
〒332-0032 川口市中青木4-1-20
- ④ かすかべ生協診療所…………… TEL：048-752-6143
〒344-0065 春日部市谷原2-4-12
- ⑤ 老人保健施設みぬま…………… TEL：048-294-9222
〒333-0831 川口市木曽呂1347
- ⑥ ケアセンターきょうどう…………… TEL：048-296-4973
〒333-0831 川口市木曽呂1347 老人保健施設みぬま内
- ⑦ ケアセンターかがやき…………… TEL：048-252-1321
〒332-0032 川口市中青木4-1-24
- ⑧ ケアステーションかしの木…………… TEL：048-942-7533
〒340-0043 草加市草加4-5-1
- ⑨ ケアセンターすこやか…………… TEL：048-299-8000
〒332-0026 川口市南町1-1-24
- ⑩ ケアセンターひだまり…………… TEL：048-760-2630
〒344-0054 春日部市浜川戸2-13-17 伏見屋第1ビル1階

▶ 県中地域ネットワーク

- ⑪ 浦和民主診療所…………… TEL：048-832-6172
〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和5-10-7
- ⑫ おおみや診療所…………… TEL：048-624-0238
〒331-0047 さいたま市西区指扇1100-2
- ⑬ 生協歯科…………… TEL：048-810-6100
〒336-0926 さいたま市緑区東浦和6-16-1
- ⑭ ケアステーションうらしん…………… TEL：048-833-7373
〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-8-12 松岡ビル4階
- ⑮ おおみやケアセンター…………… TEL：048-620-2236
〒331-0047 さいたま市西区指扇1070
- ⑯ ケアセンターかもがわ…………… TEL：048-778-5030
〒362-0076 上尾市弁財1-6-1 第2ふじみハイツ1階

▶ 県西地域ネットワーク

- ⑰ 埼玉西協同病院…………… TEL：04-2942-0323
〒359-0002 所沢市中富1865
- ⑱ 所沢診療所…………… TEL：04-2924-0121
〒359-1143 所沢市宮本町2-23-34
- ⑲ 大井協同診療所…………… TEL：049-267-1101
〒356-0050 ふじみ野市ふじみ野1-1-15

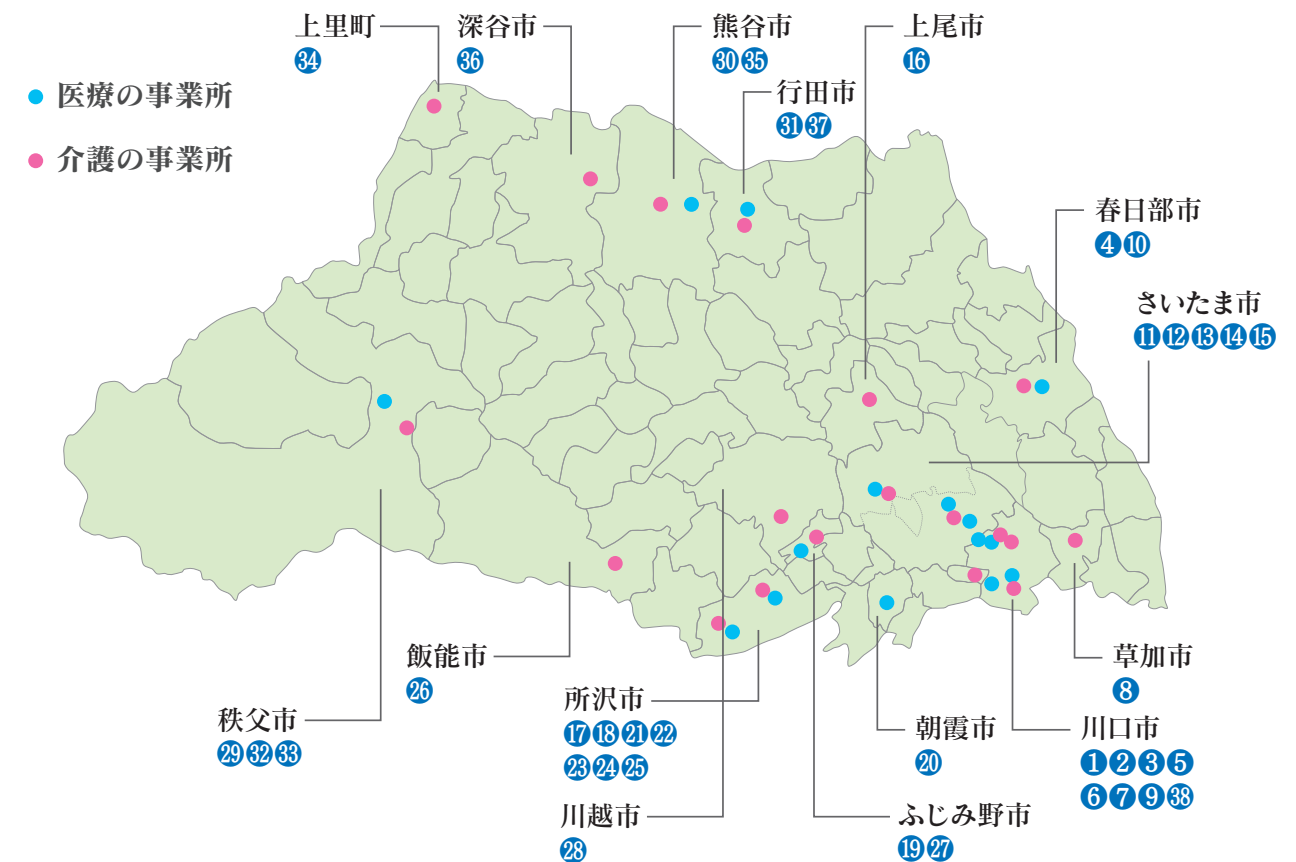
- ⑳ あさか虹の歯科…………… TEL：048-476-8241
〒351-0033 朝霞市浜崎724-2
- ㉑ 老人保健施設さんとも…………… TEL：04-2942-3202
〒359-0002 所沢市中富1617
- ㉒ 小規模多機能さんとも・グループホームさんとも…………… TEL：04-2941-6358
〒359-0002 所沢市中富1617
- ㉓ ケアセンターとみおか…………… TEL：04-2942-0360
〒359-0002 所沢市中富1617
- ㉔ ケアセンターとこしん…………… TEL：04-2924-1119
〒359-1143 所沢市宮本町2-23-34
- ㉕ 介護付有料老人ホーム 桂の樹…………… TEL：04-2923-3695
〒359-1143 所沢市宮本町2-23-34
- ㉖ ケアセンターはんのう…………… TEL：042-983-8622
〒357-0021 飯能市双柳150-23 2階
- ㉗ ふじみ野ケアセンター…………… TEL：049-267-1104
〒356-0004 ふじみ野市上福岡3-3-7
- ㉘ ケアセンターたかしな…………… TEL：049-291-6001
〒350-1137 川越市砂新田4-1-4 ブランドールビル2階

▶ 県北地域ネットワーク

- ㉙ 秩父生協病院…………… TEL：0494-23-1300
〒368-0016 秩父市阿保町1-11
- ㊀ 熊谷生協病院…………… TEL：048-524-3841
〒360-0012 熊谷市上之3854
- ㊁ 行田協立診療所…………… TEL：048-556-4581
〒361-0052 行田市本丸18-3
- ㊂ 生協ちちぶケアステーション…………… TEL：0494-22-9902
〒368-0016 秩父市阿保町1-11
- ㊃ 生協ちちぶ在宅介護支援センター…………… TEL：0494-25-2077
〒368-0032 秩父市熊木町24-15 熊木町プレイス1階
- ㊄ 生協介護センターこだま…………… TEL：0495-35-3271
〒369-0306 児玉郡上里町七本木3556-4-102
- ㊅ 熊谷生協ケアセンター…………… TEL：048-524-0030
〒360-0012 熊谷市上之3854
- ㊆ 深谷生協訪問看護ステーション…………… TEL：048-501-8170
〒366-0042 深谷市東方町2-7-2
- ㊇ ケアセンターさきたま…………… TEL：048-556-4612
〒361-0052 行田市本丸18-3

- ㊈ 配置薬センター…………… TEL：048-297-9841
〒333-0831 川口市木曽呂1317

医療生協さいたまは
医療・介護のネットワークで
地域包括ケアを提供しています



医療生協は、非営利の医療と介護の生協（生活協同組合）です。
医療・介護事業を通じて健康な暮らしづくりをサポートしています。
生協の精神は「一人は万人のために、万人は一人のために」。
「健康でありたい」と願う人たちが出資金を出して組合員になり、
医療生協の運営や活動に取り組んでいます。

1

安心の医療・介護・保健事業

相談窓口の充実と「いのちの平等」の実践

医療生協さいたまでは、患者・利用者の相談窓口を充実させています。本人や家族の希望を聞き、その生活環境や経済状態を踏まえ、地域の社会資源も活かした支援に結びつけます。事例によっては、多職種によるカンファレンスも行い、適切な支援を検討します。

入院時の差額ベッド代はいただいていません。お金のある・なしで、不平等があってはならないと考えています。医療費や利用料の支払いが困難な方に対しては、減額や免除を行う無料低額診療(利用)事業を行っています。



訪問診療に向かう医師と看護師（大井協同診療所）

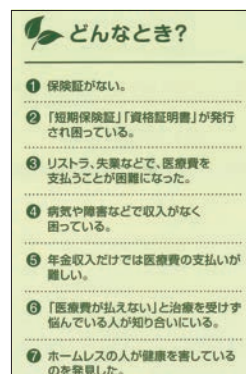
16事業所で無料低額診療事業を実施

社会福祉法第2条にもとづき、医療費などの減額や免除を行う無料低額診療(利用)の事業があり、歯科や老人保健施設を含む16事業所でこの制度を利用できます。

2017年度、延べ相談回数は196回、延べ減免回数は652回でした。この事業の適用の相談から生活保護の申請につなげたケースは15件でした。

無料低額診療(利用)事業を行っている事業所

埼玉協同病院 埼玉西協同病院 秩父生協病院 熊谷生協病院 さいわい診療所 川口診療所
浦和民主診療所 おおみや診療所 かすかべ生協診療所 大井協同診療所 所沢診療所
行田協立診療所 生協歯科 あさか虹の歯科 老人保健施設みぬま 老人保健施設さんとも



無料低額診療事業を紹介するパンフレット（一部）

公開講座「命の授業」の開催

次世代・若い世代にいのちを大切さを伝えるため、公開講座などのかたちで、学校や地域において「命の授業」を開催しています。命の授業は子どもたちが親になったときに、自分の子どもに対して愛情をもって接し、育てることにつながっていく取り組みです。

埼玉協同病院では、妊娠期からの支援で虐待の未然防止を目的として、2017年6月に「小児虐待対策チーム」を発足させました。メンバーは、小児科の医師、助産師、看護師などの多職種から構成されており、院内の各診療科(外科や皮膚科など)で気づいた虐待のサインは、チームに報告が上がるようになっています。



「命の授業」では、妊娠・出産のしるみを、イラストやビデオ、模型などを使いながら、楽しくわかりやすく体験的に学ぶことができる（埼玉協同病院の助産師による「命の授業」）

住みなれた地域生活をサポート

住みなれた地域で生活を継続できるための、質の高い介護事業を展開しています。患者・利用者一人ひとりが、その人らしく生き生きと安心して生活できるようサポートするために、ケアプラン作成、訪問看護、訪問介護、デイサービスなどを包括的に提供しています。

介護予防(フレイル予防→P.9)のための活動も行っています。地域密着事業の小規模多機能サービス(「通い」「宿泊」「訪問」を組み合わせたサービス)や定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス(→P.8)は、在宅療養生活を支えます。2017年5月には、認知症の方が生活するグループホーム事業も、当生協としてははじめてスタートさせました。



デイケア専用の送迎バス（大井協同診療所）



小規模多機能型居宅介護施設くまここ入口



小規模多機能型居宅介護施設さんとの吹き抜けテラス



高齢者の訪問看護（ケアセンターきょうどうの看護師）

健診事業と健康習慣

組合員のための健康づくり健康診断(組合員料金で、豊富なオプション)をはじめ、特定健診(メタボリックシンドロームの早期発見)、事業所健康診断(労働安全衛生法にもとづく)などがあります。

診断後はその結果をもとに病院・診療所で精密検査が受けることができ、保健師や管理栄養士などが支援を行います。糖尿病外来、循環器外来など、慢性疾患の治療につなげることもできます。

保健予防活動の基本として、「8つの生活習慣と2つの健康指標」を掲げています。

8つの生活習慣と2つの健康指標

組合員の保健予防活動としての「健康習慣」

健康増進の生活習慣

- 生活リズムを整え快適な睡眠をとる
- 心身の過労を避け、十分な休養をとる
- 禁煙にとりくむ
- 不適切な飲酒をしない
- 適度な運動を定期的につづける
- 低塩分、低脂肪のバランスのよい食事をする
- 間食せず、朝食をとる規則正しい食生活
- 1日1回以上よごれを落としきる歯みがきをする

健康指標

- 適正体重、適正腹囲を維持する
1. BMIが18.5～25の適正体重を維持する。
 $BMI = \text{体重(kg)} \div \text{身長(m)} \div \text{身長(m)}$
- 体脂肪率は男性25%未満、女性30%未満を維持する。
- 腹囲は男性85cm未満、女性90cmを維持する。
- 適正な血圧をめざす
1. 安静時血圧を最高135、最低85mmHg未満をめざす。
2. 年1回、健康診断を受け、全身チェックをおこなう。

2

地域に役立つ地域包括ケア

HPHとSDH —人も地域も健康に

医療生協さいたまでは、健康格差を解消する対策など、健康なまちづくりに取り組む医療機関としてWHOが提唱する国際HPHネットワークに加盟しています。

地域での子ども向け保健教室、WHO(世界保健機構)が提唱する世界保健デー・禁煙デーのイベント、各種市民公開講座などの開催もその一環で、組合員と職員がいっしょに取り組む健康体操もあります。

患者の中には、生活習慣や環境、食生活、労働、経済状況など、さまざまな背景を抱えている方が多くいます。SDH(健康の社会的決定要因)の視点で、専門職が連携して生活状況を把握し、精神的な支援を実践しています。

そして、質の高いサービスにはサービスを提供する側の職員自身の健康も大切であることから、職員も体操やダンス、禁煙のための活動、食事の作り方のレクチャーなどに取り組んでいます。



組合員と職員がいっしょに取り組む健康体操(本部・ふれあい会館)



HPH国際カンファレンスに参加した職員と、国際HPHネットワークのハンヌ・ターネセンCEO(右から2人目)、オーストリア・ウィーンで

■ HPHとSDH

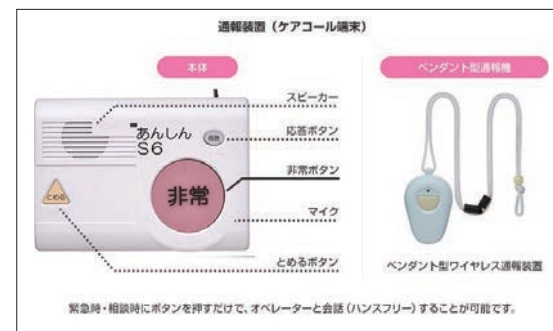
HPH=Health Promoting Hospital & Health Services
ヘルスプロモーション(人々の健康の維持・増進を目的にした活動)を実践するためにWHOが1988年に開始した、病院やヘルスサービス機関の国際的なネットワーク。

SDH=Social Determinants of Health
健康は遺伝子や生活習慣などの生物学的要因だけで決まるのではなく、成育歴・労働環境・所得・人とのつながりなどの社会的背景も関与している、という考え方。

定期巡回・随時対応訪問サービス —「24時間・365日の安心」をめざして

「住み慣れた家で、最後まで自分らしく暮らしたい」という思いを支えるため、2017年度には定期巡回随時対応訪問サービスを、ケアセンターさきたま(行田市)、ケアセンターきょうどう(川口市)、ケアセンターとこしん(所沢市)でスタートしました。2016年度にスタートした生協ちちぶケアステーション(秩父市)を含め、現在、4自治体でサービスを提供しています。

退院・退所後など、一人で生活することが不安な方も、24時間365日いつでも相談ができるので安心です。定期的な訪問と合わせて、急な体調変化などの緊急時にも対応し、在宅生活を支えます。



サービス利用者に提供される緊急通報用の端末

地域包括支援センター事業の受託・運営

2017年度、医療生協さいたまでは、3自治体から地域包括支援センターの委託を受けています。地域包括支援センターでは高齢者の相談にのり、介護に必要な援助を行い、その権利を擁護しつつ、地域での支援体制づくりをすすめています。

- 所沢市・富岡地域包括支援センター — 老人保健施設さんとも内
- 草加市・草加西部地域包括支援センター — ケアステーションかしの木内
- 川越市・川越市地域包括支援センターたかしな — 生協ケアセンターたかしな内

くらしサポーター— 組合員の助け合い活動

地域で組合員同士がちょっとした困りごとを助け合う有償ボランティアのサービス制度が、くらしサポーターです。サポートする側もされる側も組合員で、現在は、さいたま市、川越市、熊谷市、川口市、秩父市、所沢市、飯能市、上尾市、草加市、朝霞市、桶川市、富士見市、ふじみ野市の計13自治体で実施中です。

利用者からは、「組合員どうしの助け合いなので安心です」「買い物が大変だったので助かります」などの声が寄せられています。

2017年度の活動状況

活動中の自治体数	13
利用回数(延べ)	2,108回
利用時間(延べ)	3,299時間
コーディネーター数	19人
サポーター数	570人



サポーターによる受診の付き添い(埼玉協同病院)

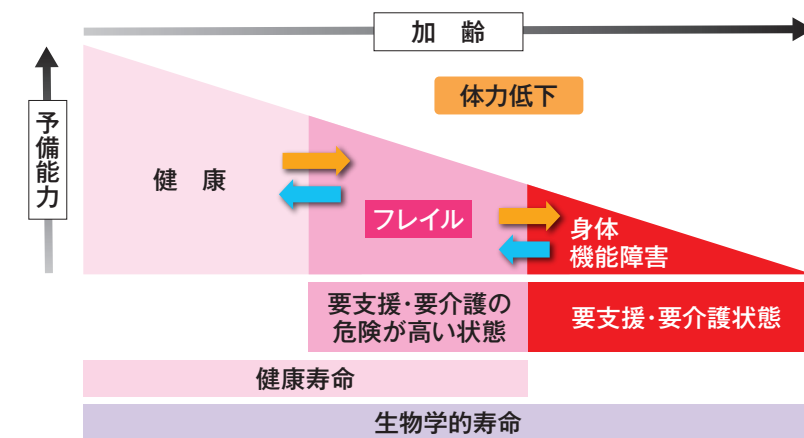
健康寿命を延ばす —フレイル予防

フレイルとは、高齢になって筋力や心身の活力が衰えた虚弱な状態です。フレイルになる要因には体力の衰えだけではなく、精神的要素(気力の低下)や孤立などの社会的側面もあります。予防には、栄養・運動・社会参加の3つの柱をバランスよく実施することが大切です。

2017年度はフレイルチェックサポーター養成講座を4カ所で開催し、97人のサポーターが誕生しました。今後は、さらに多くの地域で講座を開催してサポーターを増やししながら、フレイル予防活動を普及していきます。



フレイルチェックで、ふくらはぎの太さを計測



フレイルは、兆候を早期に発見し、適切な対処をすることで、その進行を抑制したり、健康な状態に戻ることができる

➡ 健康寿命の延伸につながる

※フレイル=frailty(フレイルティ— 虚弱・老衰などの意味)

3

住みなれた地域でつなぐ安心 —— 共生のまちづくり

多世代コミュニティ—— 子どもから高齢者まで

近所とのつながりや関係の希薄化により、社会から孤立する人が増えていることが社会的問題となっています。食の貧困問題は、全世代における問題です。

医療生協さいたまでは、住民が気軽に集える地域開放型の地域交流スペースを利用して、多世代向け食堂などを開催しています。おおみや診療所(わいわいランチ)、大井協同診療所(おーいココロンくらぶ)、介護付有料老人ホーム桂の樹(桂ん家)、老人保健施設さんとおめ・小規模多機能居宅介護(さんとおめキララ)がそうです。どこも15～40人規模の利用があり、口コミなどで広がっています。組合員が運営している川口市の「ふれあい戸塚」も、多世代の交流スペースです。

地域から孤立や孤食をなくそうと、町会や自治体職員、地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生委員、地域内の企業など、多くの団体・個人の協力が増えているのも特徴です。



川口市戸塚の支部活動拠点「ふれあい戸塚」。組合員の交流の場であり、子どもの学習支援なども行っている



昨年のクリスマス、桂の樹の交流スペースに地域の子どもの食堂のメンバーが集合

医療生協さいたまの子ども食堂・多世代交流の場

桂の食卓 桂ん家

開催日時 毎月第3金曜日
17:30～19:00
開催場所 介護付き有料老人ホーム桂の樹
参加費 大人300円、子ども(中学生まで)100円(未就学児無料)



わいわいランチ

開催日時 毎月第3土曜日
12:30～14:00
開催場所 おおみや診療所
参加費 大人300円、子ども(高校生まで)100円、回数券6回分大人1500円、子ども500円



多世代コミュニティ・キッチン おーい ココロんくらぶ

開催日時 毎月第3火曜日
16:30～19:30
開催場所 大井協同診療所
参加費 大人300円、子ども(中学生まで)と75歳以上は無料



さんとおめキララ

開催日時 毎月第4金曜日
17:30～19:00
開催場所 小規模多機能さんとおめ
参加費 大人300円、子ども(中学生まで)100円(未就学児無料)



健康ひろば

健康ひろばとは、医療生協さいたまの組合員が日常的に健康づくりを行っている場です。

健康ひろばでは、ストレッチ体操やウォーキング、フラダンス、太極拳、卓球などのプログラムに取り組んでいます。筋肉トレーニングに脳トレーニング体操を組み合わせるなど、新しいメニューに挑戦しているひろばもあります。



リハビリ職がリードして体操をしている健康ひろば(川口市)

安心ルーム

安心ルームは、人との結びつきが自然に生まれる、ホッと安心できる居場所です。

おしゃべり、昼食会、小物づくり、コーラスなどの多様な活動が行われ、地域での孤立を防ぐ役割を担っています。軽度の認知症の人でも受け入れ、いっしょに活動しているスペースもあります。



合唱や健康マージャンなどの楽しさが活動を広げる(東松山市)

2017年度「2つのひろば」開催実績

健康ひろば	104支部	142カ所
安心ルーム	75支部	105カ所

オレンジカフェ—— 認知症の方やその家族とともに

認知症の方やその家族が安心して生活できるように、支援・交流の場としてオレンジカフェがあります。医療生協さいたまの主催、他団体との共催など、形態はそれぞれですが、2017年度は10カ所で開催しました。

生協ちちぶケアステーション在宅介護支援センターでのオレンジカフェは、秩父市との共催でした。大井協同診療所では、大学生がボランティアとしてオレンジカフェに参加したり、その大学で認知症についての講座を開催するなどの広がりをつくっています。



介護職員を対象にした認知症講座(本部・ふれあい会館)

※開始年月が早い順

自治体	名称	事業所	開始年月	開催頻度
熊谷市	オレンジカフェ熊谷よつぎな	熊谷生協ケアセンター	2015年2月	毎月
秩父市	まちなかカフェ ひだまり	生協ちちぶケアステーション在宅介護支援センター	2016年4月	年3回
行田市	うきしろカフェ	行田協立診療所・ケアセンターさきたま	2016年9月	隔月
川口市	老人保健施設みぬま オレンジカフェ	老健みぬま・ケアセンターきょうどう	2017年2月	奇数月
川口市	オレンジカフェ すこやか	川口診療所	2017年2月	毎月
ふじみ野市	オレンジカフェふじみん my Life	大井協同診療所	2017年4月	偶数月
所沢市	オレンジカフェ さんとおめ	小規模多機能・グループホームさんとおめ	2017年7月	毎月
所沢市	オレンジカフェ なかとみ	埼玉西協同病院	2017年7月	毎月
所沢市	所沢市みんなのカフェ ホッとこしん	所沢診療所・ケアセンターとこしん	2017年9月	毎月
川口市	さいわい診療所 オレンジカフェ	さいわい診療所・ケアセンターかがやき	2017年12月	10月・12月・2月

なお、医療生協さいたま職員のキャラバンメイトは、2017年度の認知症サポーター養成講座を40カ所で実施し、地域の中で小学生から高齢者まで、新たに933人の認知症サポーターの登録に結びつけました。

視覚障がい者向けの「声の新聞」

「視覚に障がいのある方にも情報を届けたい」という思いから、声の新聞制作委員会では23年にわたって毎月欠かすことなく、医療生協さいたまの広報誌『けんこうと平和』の音訳版(録音テープ)をつくってきました。

現在は、世界標準規格であるデイジー録音への移行作業中であり、より多くのニーズに対応できるように、ボランティアを増やして取り組んでいます。ボランティアの公募で、新たに20人が音訳に取り組んでいます。



声の新聞制作委員会による録音中の様子(埼玉県障害者交流センター)

4

自治体や諸団体との連携で暮らしやすく、住みやすく

住民主体の総合事業 ― 組合員支部が参加するまちづくり

組合員支部が自治体とともに取り組む、地域の居場所やくらしを支える活動に、介護予防・日常生活支援総合事業(以下、総合事業)があります。

2017年4月、草加支部が市から受託し、住民主体による総合事業(通所型・訪問型サービスB)として、「ふれあいセンター・新田^{しんでん}」がスタートしました。認知症予防の「脳いきいき教室」、転倒予防の「てんとう虫教室」、創作活動として手工芸を行っています。毎月延べ200人ほどが利用しています。

2017年10月には、越谷支部がコープみらいと協力し

て越谷市から総合事業(通所型サービスB)を受託しました。医療生協と購買生協の協力で、越谷市内2カ所で開催しています。

2017年9月、行田協立診療所は、短期間(3～6カ月)のサービス(通所型サービスC=短期集中予防サービス)を受託しました。退院後などで日常生活に支えが必要な方などを対象にリハビリを行い、日常生活が送れることを目的にしています。サービス終了後は、近くの組合員支部とのつながりができるようにしています。

■ 総合事業とは

「総合事業(介護予防・日常生活支援総合事業)」は、2017年4月からすべての市区町村で提供がはじまった介護サービス。「介護予防・生活支援サービス事業(サービス事業)」と「一般介護予防事業」から構成されている。

それまでは、要支援者の訪問介護や通所介護のサービスは、国が定めた全国一律の基準で提供されてきた。総合事業では地域住民の参加などにより、地域ごとに工夫した多様なサービスを要介護者に提供できるようになった。



ふれあいセンター・新田で秋まつりを開催



越谷支部と生活協同組合コープみらいの合同クリスマス会(ミニコープせんげん台店)

「経済的事由による手遅れ死亡事例」の調査

各事業所では2017年度、「経済的事由による手遅れ死亡事例」についての調査を実施しました。調査では、埼玉協同病院における50～60代の男女あわせて5人の死亡事例がありました。このうち3人は無保険状態であり、2人は国民健康保険加入者ですが、保険証があっても非正規雇用や低年

金で経済的に困窮しているため、医療機関での受診を避けていました。

医療生協さいたまでは引き続き、社会保障制度の改善を求めるとともに、無料低額診療事業(→P.6)の利用を呼びかけていきます。

見守り協定 ― 34自治体と

組合員や職員が日常的に活動するなかで、高齢者などの異変を察知して支援や保護が必要な状況に気づき、自治体と連携するしくみづくりをすすめています。2018年3月末現在で、34の自治体と見守りに関する協定の締結や登録を行いました。

34自治体
さいたま市 川越市 熊谷市 川口市 行田市 秩父市 所沢市 飯能市 東松山市 狭山市 鴻巣市 深谷市 上尾市 草加市 蕨市 戸田市 入間市 朝霞市 桶川市 北本市 富士見市 蓮田市 幸手市 日高市 吉川市 ふじみ野市 白岡市 横瀬町 皆野町 長瀬町 小鹿野町 寄居町 宮代町 杉戸町 (2018年3月末現在)

広報紙『けんこうと平和』は、毎月130,000部を発行し、そのうちの約117,000部が10,000人以上の組合員によって配布されています。配布の際には、配布先の組合員宅や配布の途中で、「何か変わったことはないか」などの点に注意し、見守るよう心がけています。支部によっては、配布者全員が医療生協さいたまの講習を受けた見守りサポーターです。

こうした地域に密着した取り組みが自治体に評価され、「見守り協定」の締結などにつながっています。



2017年11月28日(火)、さいたま市と「さいたま市要支援世帯の早期把握のための対策事業の協力に関する協定書」を締結。中央左:さいたま市・志村忠信保健福祉局長、中央右:医療生協さいたま・齊藤民紀専務理事



『けんこうと平和』の配布の様子(川口市)

子育て支援 ― 病児・障がい児をもつ家族のサポート

熊谷生協病院では2012年から職員を対象にした病児保育を行い、病児保育について熊谷市との懇談も重ねてきました。そして、2018年度熊谷市の総合戦略の一つに「病児保育の実施」が位置づけられ、市民向けの病児保育室の開設につながりました。名称は「こぐまちゃんち」です。病気が発症した段階で利用できます。

ケアセンターとこしんとケアセンターさきたまでは、障がいを持った子どもを一時的に預り、見守りなどをすることで、家族の就労環境を整え、介護の負担を軽減する「日中一時支援事業」に取り組んでいます。老人保健施設さんともめでは、家庭での介護が困難になったとき、ショートステイ(短期入所療養介護)を利用することができます。



熊谷生協病院入口に掲示している病児保育室「こぐまちゃんち」の案内(上)と、「こぐまちゃんち」を訪れた富岡清・熊谷市長(右から2人目)と小堀勝充院長(いちばん右)

住みやすいまちづくりのための協力・連携・受託など

社会福祉協議会や地域包括支援センター、NPO法人などとの協力関係や連携が広がりを見せています。各地区の主な活動を紹介します。

県中地域

上尾市：支部とNPOなどで健康福祉カフェ 医療生協さいたまの上尾東支部・上尾西支部、ケアセンターかもがわ、NPO法人デイサービスチャのみ、年金者組合、NPO法人あったか村で構成される実行委員会が主催し、「健康福祉カフェ」を年2回、開いています。健康づくりを活動の中心にしています。

さいたま市：コープみらいと健康チェック&相談会 さいたま市では、コープ指扇店のスペースを借り、健康チェックや健康相談会を行うことを通して健康診断に結びつけ、地域全体の健康づくりの一端を担っています。



上尾市での認知症講座

県南地域

川口市：地域包括支援センターや民生委員と健康ひろば 老人保健施設みぬまのフリースペース「みぬまひろば」では、地元の地域包括支援センターと町会や民生委員などが協力して「神根ふれあいサロン」が開催されています。医療生協さいたまのリハビリ科職員が、体操などを指導しています。

蕨市：パルシステムやNPOとヘルシーサロン 蕨市の支部では、生活協同組合パルシステム埼玉が立ち上げたNPO法人とレストランの共催で「ヘルシーサロン」がスタートしました。



老人保健施設みぬまでの「神根ふれあいサロン」

県西地域

所沢市：社会福祉協議会と生活相談会 埼玉西協同病院では、所沢市の社会福祉協議会と協力し、病院内で外来患者向けに生活相談を行いました。地元の小学校から高齢者体験学習の依頼もあり、組合員や看護師などが授業に協力しました。

所沢市：市の委託事業でオレンジカフェ 小規模多機能さんとのためのテラスさんとのめで開催しているオレンジカフェは、「オレンジカフェさんとのめ」の名称で「所沢市みんなのカフェ」として、所沢市と事業委託契約を結んでいます。

ふじみ野市：大学生ボランティアと市主催事業への協力 大井協同診療所のオレンジカフェでは、大学生のボランティア活動もありました。ふじみ野市主催の「一人歩き高齢者声かけ訓練」では、医療生協さいたまが協力団体になり、組合員10人が高齢者役として訓練に協力しました。

飯能市：養育支援訪問事業の受託 ケアセンターはんのうでは、飯能市養育支援訪問事業を受託し、子育てが困難な家庭などに対する支援体制を持っています。



地域に開かれた事業所まつり（埼玉西協同病院）



「オレンジカフェさんとのめ」の入口（桂の樹）

県北地域

秩父市：多職種連携の事務局機能 秩父生協病院では、院長が「秩父多職種連携を考える会」の会長を務めるとともに、その事務局機能を担っています。年2回ほど学習会を企画し、医師・歯科医師・保健師・看護師・薬剤師・介護福祉士など、15以上の職種が100～200人参加し、地域の多職種連携、地域医療の発展に寄与しています。

秩父市：育児支援家庭訪問事業の受託 生協ちちぶケアステーションでは、横瀬町の育児支援家庭訪問事業を受託し、出産後間もない家庭での家事援助や育児支援などを行っています。

本庄市：医師会の在宅療養連携拠点に登録 在宅療養・介護連携のためにつくられた多職種による本庄市児玉郡医師会の在宅療養連携拠点には、ケアセンターこだまのスタッフがケアマネジャーとして登録しています。



熊谷市の学童保育施設での認知症講座

5

地域に寄り添い 地域に開かれた医療生協

地域に開かれた健康づくりのイベント

毎年春にウォークフェスタを、秋には健康フェスタを開催しています。どちらも、健康チェックや体力チェック、各種のゲームなどを通して地域の中で医療生協を知ってもらい、健康づくりに取り組むきっかけにつなげてもらうための大型企画です。

2017年度のウォークフェスタは、鴻巣市・さきたま

緑道～行田市・さきたま古墳で開催し、約1,000人が参加しました。健康フェスタは、生活協同組合コープみらいによる「コープみらいフェスタ」、埼玉県物産観光協会による「さいたまTHE(地)スイーツフェア」、埼玉県国際交流協会による「国際フェア2017」と同時開催で、全体で約45,000人が来場しました。

ウォークフェスタ
(行田市・さきたま古墳公園)



健康フェスタ
(さいたま市・さいたまスーパーアリーナ)



市民公開講座 ― 地域とともに学び、考える

地域の住民を対象にして、医師・保健師・看護師・管理栄養士などの専門職が医療や健康について広く知らせる活動を行っています。

テーマは、「認知症」「がん」「糖尿病」「食中毒」「子育て」など、さまざまです。2017年度は、合計で約1,500人の参加がありました。地域に正しい情報を伝え、健康な生活を送れるようにするための企画です。

2017年度市民公開講座の主な開催実績

テーマ	主催／参加人数
認知症を考える	県央地区 127人
にこにこ市民健康講座	川越比企地区・南西部地区合同 120人
訪問診療について	埼玉協同病院 156人
糖尿病と健診について	さいわい診療所 60人
中年期以降の膝・股関節痛について	川口診療所 50人
自分らしい最期を迎えるために	行田協立診療所 300人
在宅医療・在宅歯科医療について	埼玉協同病院 400人
	埼玉西協同病院 45人
	行田協立診療所 40人



小児科医師による、赤ちゃんの虫歯予防の講義（埼玉協同病院）



精神科医師である雪田理事長による認知症を考える講座（ふじみ野市）

フードドライブ ― 食の助け合いと支え合い

家庭で余分にある食料品を寄付していただき、これらを必要とする患者さんや地域の方に提供しています。集まった食品は、NPO法人フードバンク埼玉に送ったり、事業所に訪れた希望者に直接渡したりしています。

各事業所ではのぼりを立てたり、事業所ニュースに記事を掲載するなどして活動を紹介し、地域に知らせる工夫をしています。支部や事業所の健康まつりなどのイベントでもフードドライブを実施し、多くの個人や団体から寄付に協力していただきました。提供者の中には、地元の民間企業もあります。

フードロスや食の貧困の対策に結びつける取り組みです。



埼玉協同病院でのフードドライブ。2017年度、医療生協さいたまには、さまざまな方から多くの食料が寄せられた

まちかど健康チェック・健康相談 ― 地域まるごと健康づくり

地域の人々の暮らしと健康を守るために、スーパーマーケットや駅頭などで、だれでも気軽に参加していただける「まちかど健康チェック」を実施しています。これは、組合員と職員の協力による取り組みで、健康相談や健康診断のすすめ、足指力測定、骨密度測定などの、保健予防活動です。

さらに、尿チェックや大腸がんチェック、アカンベチェック（貧血）、咀嚼力判定ガムなど、手軽な価格で自分できる健康チェックグッズを使用し、組合員同士で健康チェックを実施することで、地域まるごと健康づくりに取り組んでいます。

2017年度健康チェック 項目別実施回数

	血圧	尿蛋白	体脂肪率	骨密度	そのほか
班会 計9,429回	7,103	247	1,173	10	896
まちかどチェック 計6,147回	1,843	85	1,465	587	2,167
合計 15,576回	8,946	332	2,638	597	3,063

※「そのほか」には、尿中塩分濃度、アカンベチェック、便潜血などが含まれる



健康まつりなどのイベントでは、医師や保健師、看護師などが相談を担当。組合員による健康チェックの取り組みも活発（上：さいたま市、下：埼玉西協同病院）

子ども向け体験型の口腔衛生教室

各事業所では子ども向け保健教室を開催しており、生協歯科、あさか虹の歯科、行田協立診療所歯科では、口腔衛生についての教室があります。正しい歯磨きの仕方や砂糖の摂取などについて学んだり、自分の口腔内の細菌を見たりして、歯の衛生について学び、身につける機会となっています。歯科医師の指導を受けながら、歯を削る体験もできます。

子どもの頃から口腔衛生に関心を持ち、生活習慣に気を配ることで、将来の病気になるリスクを軽減させるための取り組みです。



あさか虹の歯科での子ども保健教室

地域の社会貢献団体への資金助成

非営利の市民団体との連携を行い、地域に貢献することを目的に、NPOなどの活動資金を助成しています。助成は、地域の保健・医療・福祉の向上に資する活動、自然環境の改善に資する活動、大規模災害の復興支援に資する活動、などを対象にしています。

2017年度は、以下の団体に資金を助成しました。

- グループTAKIZAKURA(さいたま市)
- 特定非営利活動法人 無料塾ひこぞ(さいたま市)
- まちなか交流広場利用者協議会(熊谷市)
- 原発とめよう秩父人(秩父市)
- HSF市民測定所・深谷(深谷市)



子どもの居場所・学びの場をつくる、無料塾ひこぞ

地域と協力した合同防災訓練・BLS訓練

医療生協さいたまの4病院では、毎年、トリアージ訓練を行っています。トリアージとは、災害などによって多数の傷病者が一度に発生した場合、その緊急度や重症度に応じて対応するために治療優先順位を決めていくことです。組合員が模擬患者となって、訓練に協力している病院もあります。

また、各病院では、地元の地区町会や消防署と合同で防災訓練を実施しています。埼玉協同病院の場合、定期的に町会などとの合同訓練を行っています。右の写真(中央)の日は近所のスポーツセンター体育館での訓練に、地元住民が約250人、消防関係者が約30人、救急看護認定看護師などの職員が6人、参加しました。

ほか、事業所ごとにAED(自動体外式除細動器)などを使った救急時の対応の講習会(BLS訓練)などを開き、実践的な知識を身につけています。

※AED=Automated External Defibrillator

※BLS=Basic Life Support



トリアージ訓練 (埼玉協同病院)



地域の防災訓練で、救急ケア認定看護師が人工呼吸の手順などについて説明 (川口市神根地区)



新入看護職員を対象にした BLS (1次救命処置) 訓練。本部などでは、一般職員向けの講習も開催している

危険性を「見える化」するDIG訓練

災害時の対応については、地図を使って見取り図に参加者自身が書き込みをすることで、地域に潜む災害の危険性を「見える化」するDIG※訓練も行なっています。これは、地図の上に公園などの避難場所をポイントし、また、危険なエリアもマークし、災害時にどう動くべきかを具体的にイメージする作業です。

右写真は、埼玉県防災士会の指導を受けてDIG訓練に取り組んでいる様子です(本部・ふれあい会館)。

※DIG=Disaster(災害)、Imagination(想像力)、Game(ゲーム)の頭文字3文字をとった略称



6

いのちと人権が大切にされる 平和な社会をめざして

災害復興の支援活動

東日本大震災の復興支援として、岩手県大槌町での「いわて生協ふれあいサロン」に毎月参加しました。2017年度は12回支援のために訪問し、組合員・職員あわせて80人の参加でした。仮設住宅に住む人からは、「これからも来てほしい」「震災を風化させないでほしい」という声が寄せられています。

2017年10月に発生した台風22号による床上・床下浸水の被災者支援に川越東支部が取り組み、炊き出しや組合員の全戸訪問を行いました。床上・床下浸水の被害は、寺尾地区で428戸、元福岡地区で49戸あり、川越東支部の組合員被災者43戸でした。組合員は、被災支援ボランティアに温かいきのこ汁をふるまい、被災組合員の全戸訪問も実施しました。

大規模災害の被災地・被災者に対しては、募金を集めたり、人的な支援活動を行ったりしています。



いわて生協ふれあいサロンで、組合員が落語を披露



川越市での台風の被害者に対する支援活動を報告（本部・ふれあい会館）

憲法カフェ——気軽に学ぶ人権・平和

気軽に参加できるカフェ形式で憲法を知り、学び、交流することを通し、人権や平和について考える機会を設けています。

2017年度、憲法カフェを各地域や職場で延べ21回開催し、計351人が参加しました。日本国憲法に記されている平和や人権などの価値について、主体的に学び、日々の生活・取り組みの中に活かしていくことを大事にしています。職員の中でも、学びあう活動もすすめています。職場ごとに憲法学習会を開催したり、学習資料を読み合わせたりしました。

平和について考える取り組みとして、著名講師による学習講演会と活動報告を行う「ピースフォーラム」も、毎年秋に開催しています。



堅十萌子（たてともこ）弁護士を講師に迎え、憲法の学習会を開催し、170人の組合員・職員が参加（本部・ふれあい会館）



職員を対象にした憲法学習会（ケアセンターきょうどう）

核のない世界をめざして

いのちや人権を脅かす戦争に反対し、平和な社会を築くための活動を行っています。NPT（Treaty on the Non-Proliferation of Nuclear Weapons＝核拡散防止条約）再検討会議は5年ごとに開かれ、次の2020年に向けて核兵器廃絶を求める署名を集める活動を行っています。署名は原水爆禁止日本協議会を通じ、順次、国連に提出されています。

毎年開かれる原水爆禁止世界大会には、組合員・職員合わせて40～50人規模の代表を広島や長崎に派遣してきました。現地で被爆者から直接、体験談を聞き、他団体や外国からの参加者と交流し、後日、事業所や地域で報告会を開きます。

2016年4月から、「ヒバクシャが訴える核兵器廃絶国際署名」に取り組み、2017年3月末現在で16,180筆に到達しました。



原水爆禁止2017年世界大会（長崎行動）の参加者



駅頭での署名活動（上福岡市）

核兵器禁止条約交渉会議・ニューヨーク行動に職員を派遣

2017年6月、核兵器禁止条約交渉会議が行われているニューヨークでの市民のアピール行動に、医師1名を派遣しました。医師は、交渉会議の傍聴、現地での署名活動、平和行進などに参加しました。

市民のアピール行動は、原水爆禁止日本協議会の呼びかけで、核兵器禁止条約の成立を多くの市民が支持していることを示し、世論を喚起し、交渉会議を後押しするために行なわれました。帰国後は、原水爆禁止世界大会に参加する職員や組合員に向けて、ニューヨークでの体験を報告しました。



ニューヨークでの医師の活動の様子

『へいわノート』第2巻を刊行

広報紙『けんこうと平和』では、読者などから寄せられた戦争体験記録である「へいわノート」を毎月掲載しています。これらをまとめた冊子を2015年に刊行し、2017年3月、その第2巻ができ上がりました。第2巻では36人の戦争体験記を収め、各ページには用語解説を付しました。第1巻・第2巻ともに、表紙はいわさきちひろの作品です。

世代を超えて戦争の悲惨さを語り継ぎ、平和の大切さについて考えてもらうきっかけになるよう願っています。第2巻は、県内の中学校・高校700校に寄贈しています。



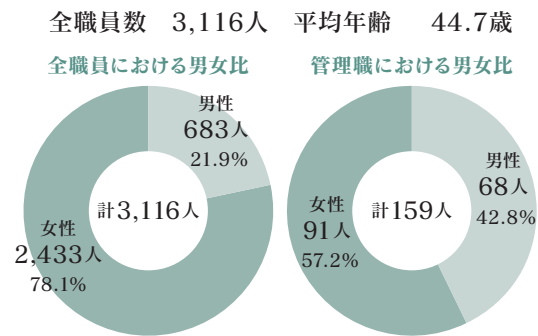
第2巻の表紙（税込み400円）

7

働きやすい職場づくりと環境にやさしい取り組み

女性が活躍する職場

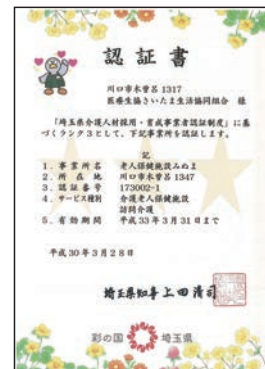
厚生労働省の「平成28年度雇用均等基本調査」における課長相当職以上の女性管理職割合は、「医療・福祉」分野では50.6%ですが、医療生協さいたまでは57.2%です。全職員では、女性が全体の80%近くを占めています。



埼玉県の認証制度で最高ランクの老人保健施設

埼玉県介護人材採用・育成事業者認証制度では、「認証取得に向けた取り組みによって事業所等の方々のレベルアップや職員の育成が促進されるとともに、その「見える化」によって、新たな人材の参入が図られ、埼玉の福祉が一層向上すること」(埼玉県のホームページによる記述)がめざされています。

認証ランクはランク1(★)からランク3(★★★)がありますが、医療生協さいたまの老人保健施設みぬま(川口市)と老人保健施設さんとも(所沢市)が、最高のランク3として認証されています。



仕事と子育てを両立させるための環境整備

埼玉協同病院には院内保育所があり、埼玉西協同病院では保育室を設置しています。育児休業、育児に関わる短時間制度や深夜業の制限、子の看護休暇についても規程で定め、子育てしやすい環境を整えています。

育児のための短時間勤務制度は、対象者の100%が利用しています。熊谷生協病院は、熊谷市の子育て支援優良企業に認定されています。



埼玉協同病院敷地内のつくし保育所

有給休暇の取得率(各年度末日現在)

対象:常勤職員

年度	2016	2017
取得率:消化日数/総付与日数	54.7%	57.4%

※有給休暇取得を促進するため、半日単位で取得できる制度を導入しています

介護休暇取得人数(各年度末日現在)

対象:常勤職員

年度	2015	2016	2017
介護休業取得者	1	2	2
年度末常勤職員数	1,388	1,448	1,530

次世代の育成と事業継続のために

実際の医療現場を体験して医療従事者の仕事を知ってもらえるよう、高校生などを対象に春休みや夏休みなどの期間に一日体験会を開催しています。これらは、埼玉県の後援を受けています。

医師をめざす高校生・受験生に向けた企画としては、4つの病院と8つの診療所が、それぞれ特色のある医師体験プログラムを用意しています。一日看護体験は、年間で約1,000人の受け入れがあります。また、歯形や歯石をとる体験などができる歯科衛生士の一日体験もあります。

医療従事者が不足する埼玉県にあって、厚生労働省の臨床研修指定病院(医師)、看護学校の実習病院として、人材育成を担っています。プライマリ・ケアを専門とし、病気の背景もみながら診療にあたる「家庭医」(家庭医療専門医)の養成もすすめています。

なお、2017年度の離職率(分母は、2017年度期首職員数)は4.1%でした(2016年度の離職率は4.4%)。



一日看護体験会で、小グループに分かれて、看護職員が高校生の質問に応じて相談にのる(本部・ふれあい会館)

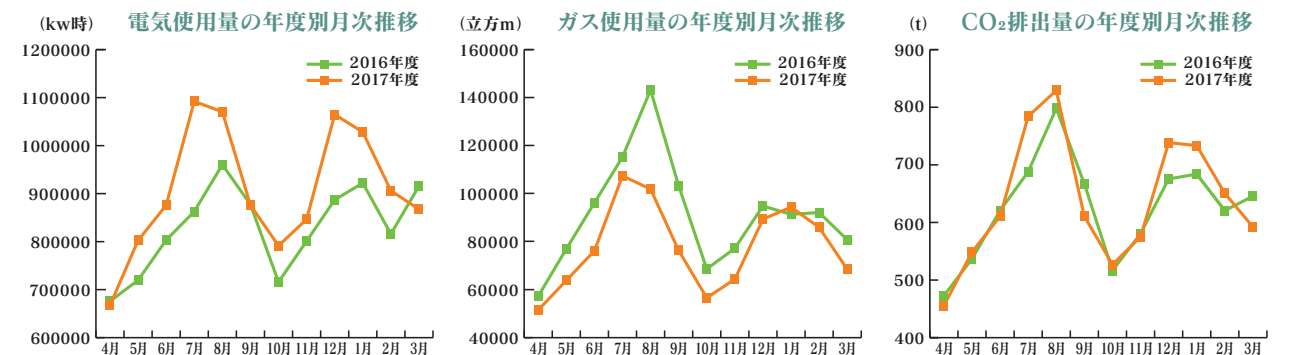


家庭医専門試験のための模擬試験の様子。組合員がボランティアで模擬患者として協力

CO₂排出量と環境報告書

2017年度から、排出係数は埼玉県地球温暖化防止条例に準じて計算を行っています(電気・ガス・灯油)。

また、環境に配慮した取り組みをすすめるために、「環境活動月次報告書」を発行して、全事業所で情報を共有しながら目標に対する進捗状況を管理しています。ここには、事業所別の放射線量、電気・ガス・灯油・水道・紙の使用量、CO₂排出量のデータが掲載されているほか、緊急事態対応訓練や、各事業所で取り組む廃油回収、廃棄物削減、暖房使用時間の短縮、緑化・環境美化の推進などの情報も掲載されています。



放射線量の測定

県内での放射線量測定は、2011年3月に発生した東京電力福島第一原発事故以降、継続的に行われています。

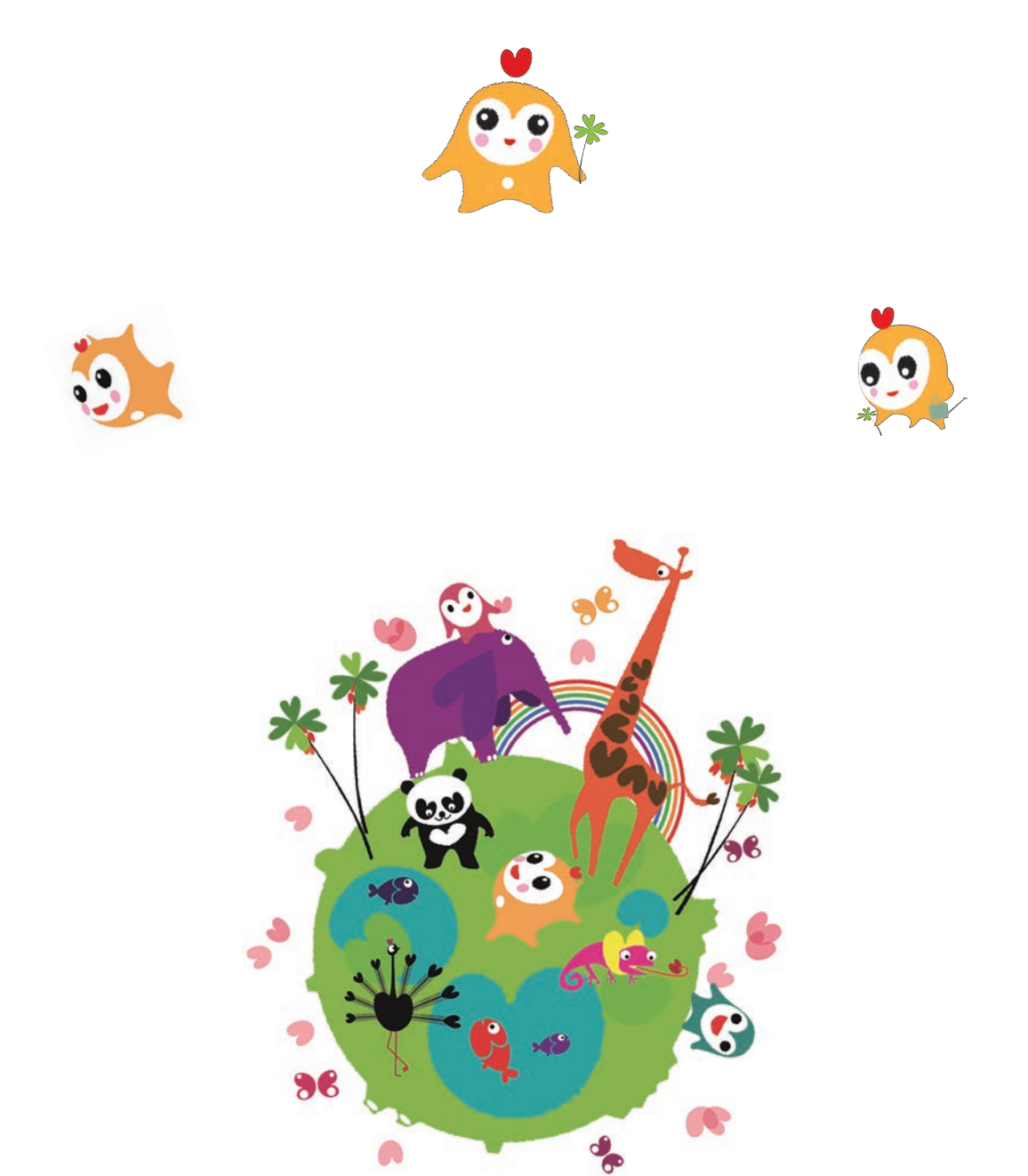
2017年度は、36支部で延べ850回、測定しました。子どもが遊ぶ公園などでも測定していますが、この間は、自治体に連絡する基準(0.3μSv/h=1時間あたり0.3マイクロシーベルト)を超える結果は出ませんでした。また、職員が交代で測定を続けている事業所もあります。



組合員による放射線量の測定(横瀬町)

医療生協さいたまのキャラクター 「ココロン」

ココロンは、医療生協さいたま設立20周年を記念して、医療生協さいたまのロゴの色とかたち、医療生協さいたまの基本理念「私たちのこころ」がもとになって生まれました。
ココロンは、みんなと力を合わせ、助け合い、心のつながりを大切にします。医療生協さいたまのマスコットとして、多くの方に、末永く愛されるよう、願っています。



組織概要

(2018年3月末現在)

名 称	医療生協さいたま生活協同組合
設 立	1992 年 4 月1日
本部所在地	埼玉県川口市木曾呂 1317
事業エリア	埼玉県全域
総事業収入	215 億 283 万円
出資金総額	62 億 7,747 万円（1 口=1,000 円）
組 合 員 数	228,384 人
代 表 理 事	理事長 雪田慎二 専務理事 齊藤民紀
職 員 数	3,116 人
事 業 所 数	病院 —— 4 診療所 —— 10（3 歯科含む） 老人保健施設 —— 2 介護付有料老人ホーム —— 1 グループホーム —— 1 小規模多機能型居宅介護施設 —— 2 訪問系介護事業所 —— 17 合計 —— 37
決 算 期	毎年 3 月末日



2018 CSR報告書 まちづくり・社会活動レポート

2018年10月20日発行

〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂1317
TEL : 048-294-6111(代表)
FAX : 048-294-1601

info@mcp.saitama.or.jp
<https://www.mcp-saitama.or.jp>

© Health Co-operative SAITAMA